
mitsubishi

三菱Web地理情報システム構築パッケージ



PreServ for Web Ver.5

メッシュカットツール

Q&A 集

はじめに

本ドキュメントは、メッシュカットツールについて問い合わせのあった件について Q&A 形式にまとめたものです。

目次

1	技術的な質問.....	1
1.1	複数のメッシュ定義ファイルを使用する場合の図形抽出定義ファイルについて	1
1.2	異なるメッシュ体系のメッシュを1度にメッシュカットする場合の動作について	2
1.3	メッシュ定義ファイルのメッシュ定義件数と処理性能について	3

1 技術的な質問

技術的な質問についての Q&A です。

1.1 複数のメッシュ定義ファイルを使用する場合の図形抽出定義ファイルについて

Ver.5

Q 異なるメッシュ体系でメッシュカットを行う必要があり、メッシュ体系ごとにメッシュ定義ファイルを作成しています。この場合、図形抽出定義ファイルも複数必要になりますか。

A はい、図形抽出定義ファイルも複数必要になります。
図形抽出定義ファイルにはメッシュ定義ファイルとして、1つのファイルしか定義することはできません。したがって、図形抽出定義ファイルを共通にすることはできませんので、メッシュ定義ファイルごとに図形抽出定義ファイルを用意する必要があります。

1.2 異なるメッシュ体系のメッシュを 1 度にメッシュカットする場合の動作について

Ver.5

Q 異なるメッシュ体系のメッシュを 1 つのメッシュ定義ファイルに定義しました。このとき、それぞれのメッシュ体系のメッシュについてのメッシュカット処理を 1 度の処理で行うことができますか。

A できます。ただし、この場合はメッシュの重なりが発生する可能性がありますので、図形抽出定義ファイルの<OUTPUT_TO_ALL_MESH>タグ(図形データの代表座標を含むメッシュが複数ある場合の動作を設定)には 1 (代表座標を含むメッシュすべてに対し、図形データを出力する)を設定しておく必要があります。

図形データの代表座標が 2 つのメッシュが重なった領域に存在する場合、両方のメッシュのメッシュファイルに図形データを出力します。3 つのメッシュが重なりあっている領域に代表座標がある場合は、3 つのメッシュそれぞれのメッシュファイルに図形データを出力します。

0(図形データの代表座標を含むメッシュのうち、最初に検出した代表座標を含むメッシュにのみ図形データを出力する)を設定した場合、メッシュによっては出力されるべき図形データがメッシュファイルに出力されないことがあります。

リスト 1 <OUTPUT_TO_ALL_MESH>タグの定義例

```
<!-- 代表座標を含むメッシュが複数存在する場合の定義 -->  
<!-- 0 : 最初に検出したメッシュにのみ、図形データを出力する。 -->  
<!-- 1 : すべてのメッシュに対して、図形データを出力する。 -->  
<OUTPUT_TO_ALL_MESH>1</OUTPUT_TO_ALL_MESH>
```

1.3 メッシュ定義ファイルのメッシュ定義件数と処理性能について

Ver.5

Q 業務に使用するメッシュ数を算出してみたところ、メッシュ数は20万件程度になる見込みです。メッシュ定義ファイル内のメッシュ定義が膨大な場合、メッシュカット処理時間性能にどう影響しますか？

A メッシュカットツールではツールの起動時にメッシュ定義ファイルをすべて読み込み、内部でメッシュ定義テーブルを作成してからメッシュカット処理を開始します。定義件数が多ければそれだけ起動時の定義ファイル読み込み処理に時間がかかりますが、読み込みが完了した後のメッシュカット処理そのものには影響しません(ただし、搭載メモリが少ないなどの理由で、スワップが発生しやすい環境ではこの限りではありません)。

読み込み処理時間が問題になるようでしたら、20万件のメッシュ定義を1つのメッシュ定義ファイルに定義するのではなく、いくつかのメッシュ定義ファイルに分割して使用されれば、読み込み時間を短縮することができます。